



昨年9月に行われた第26回和歌山県
支援学校体育連盟ソフトボール大会

和歌山県支援学校体育連盟は、昭和59年に養護学校体育連盟として設立され、県内の盲・ろう・病弱・肢体不自由の各学校を除いた8校が加盟している。

設立と同時に陸上競技大会が始まり、その後、ソフトボール、サッカーと大会種目が増え、日頃の練習の成果を競い合うとともに生徒同士の交流を目的に取り組んできた。

中でも陸上競技大会は30回を数え、約450人の生徒が障害種別にトラック種目とフィールド種目に出場し、熱い戦いを展開している。競技運営に当たっては、地域の高校の陸上部の教員や生徒がボランティアとして協力してくださ

支援学校が一堂に会し日頃の練習成果競う

っている。

各大会では、生徒たちが日頃の体育や放課後における練習の成果を遺憾なく発揮している。小規模な学校にとっても、県内の支援学校が一堂に集まるこの大会は、切磋琢磨して技術を高めることができる絶好の機会となっている。

また、これらの大会への参加を機に、生徒たちは卒業後もさまざまなスポーツに取り組んでいる。現在、本県には支援学校の卒業生や在校生が加入するスポーツクラブが多くあり、それぞれのチームが全国障害者スポーツ大会の出場を目指し、日々練習に励んでいる。

平成27年に本県で開催された全国障害者スポーツ大会にはソフトボールチームが出場し、団体競技では県内初の準優勝に輝いた。

今後とも、本連盟が主催するスポーツ大会を通して、生徒たちが生涯スポーツに取り組める基盤をつくっていききたいと考えている。そして、2020年パラリンピック東京大会に向け本県の障害者スポーツの発展に努めたい。

〔真砂睦弘・和歌山県支援学校体育連盟（県立みくまの支援学校内）事務局次長〕